

地域の協力で6年間取り組む体験活動が海を守る使命感へ繋がる

環境大臣賞 新潟県 長岡市立寺泊小学校

佐渡島が横たわる日本海を見下ろす高台に位置する同校。恵まれた立地を生かし、海が舞台の浜活動に住民と協働で長年取り組む。しかし、コロナ禍により活動が途絶えたのを機に、持続可能な取り組みにすべく活動を再構築。児童主体のSDGsの視点を取り入れた新たな全校浜活動が2022年にスタートした。

そのひとつが、校区の寺泊中央海水浴場の清掃活動だ。海外からの漂着ごみに加え、川を通じて陸から流れてくるごみが多いことに驚いた児童は、海岸の現状をみんなに知らせたいという思いを強めた。そこで、回収ごみは6年生が学校に持ち帰り掲示、全校にごみの種類や量を報告、地域へも発信している。

「海を守りたい」という気持ちが高まった児童は、地域主催のイベント「てらコミマルシェ」で、海にまつわるブースを設置。中でも、児童が講師を務める海岸で回収したシーグラスを使ったアクセサリー作り体験は来場者に大好評だ。また、マイクロプラスチックなどを掲載したリーフレットを作成し、環境問題の解決の一助になればという願いを込めて、多くの人に配布した。

同時に、環境をテーマにした「標語コンテスト」を児童が企画して開催。地域から100以上の標語が集まる中、審査も児童が行う。標語を考えたり審査したりすることが、あらためて環境への思いを共有するきっかけになると評判を呼び、地域を巻き込んだ活動が広く浸透した。

住民の菊地憲子さんは、「イベントでは子どもたちが楽しそうに活動していて、住民にも大好評です。しかも、日頃子どもたちが地元の海でどんな活動をしているのかがよくわかるので、とても貴重な場になっています」とほほえむ。

昔から地域と学校の絆が強い土地柄だ。船釣り体験や海水を使った塩作りなど、漁協や魚市場などさまざまな協力を得て、学年ごとに体験学習を展開。こうして、6年間「海の活動」を積み上げていく過程で、児童は住民への感謝の気持ちを胸に、海を守るという使命感を培っていく。コロナ禍を経て、活動を再構築した効果が着実に表れ始めている。

新潟県 長岡市立寺泊（てらどまり）小学校

学校長：小林 剛（こばやし つよし）

児童数：142名（2025年11月末現在）

住所：新潟県長岡市寺泊一里塚3890番地

電話：0258-75-2040

アクセス：JR 越後線「寺泊駅」から車で約15分



上：佐渡島が横たわる日本海を見晴らす教室、2左：寺泊中央海水浴場の清掃活動の様子、2右：回収したごみを学校に持ち帰り 6年生が分別し掲示する活動、3左：シーグラスのアクセサリー手作り教室では児童が講師を務める、3右：環境問題を扱った手作りリーフレット、下：地域の協力を得ながら船釣りをし豊かな海を体感する